

令和 6 年 5 月 12 日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H03646

研究課題名(和文)プレ・ポストオリンピック期東京における世界創造都市の積層と接続に関する比較社会学

研究課題名(英文)The Pre-Post OlympicCity Tokyo: Comparative and Historical Sociology on Creative City

研究代表者

吉見 俊哉 (Yoshimi, Shunya)

國學院大學・観光まちづくり学部・教授

研究者番号：40201040

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 28,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、創造都市の批判的脱構築に向け、オリンピックシティ東京とその都心北部地域について、博物館、公園、宗教、若者、大学等の面から分析を進めるところから始まった。2020年の東京五輪前後の2年間の比較分析を目指し、オンラインで国際シンポジウムも実施した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大で都市の現場の調査研究や対面の研究会開催が困難になった。1年延期された東京五輪は、日本社会の問題を一挙に露呈させる結果となった。本研究では、若手研究者が同五輪の開催過程とメディア報道の集中的な分析を進めた。この分析は報告書の他、吉見俊哉編著『検証 コロナと五輪：変われぬ日本の失敗連鎖』(河出新書)にまとまった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

コロナ禍により、本研究は様々な困難に直面した。もともと対面で開催するはずだった国際シンポジウムをオンラインとし、日英米台の4か国から報告者を集めて開催した。また、若手研究者の積極的な参加の仕組みを作り、国際シンポでも多くの若手が報告した。さらに、本研究は東京文化資源会議と連携し、成果の一部が同会議の活動に反映された。加えて、コロナ禍で迷走する東京五輪に関し、国内外の報道資料を集め、五輪と東京の関係を研究代表者の吉見の著作『五輪と戦後』(河出書房新社)やその編著の『検証 コロナと五輪』(河出新書)にまとめた。これらは、コロナ禍という困難な状況に直面しながら試行錯誤的な努力をした結果である。

研究成果の概要(英文)：This research began with a challenge for the critical deconstruction of the creative city discourses, focusing on the Olympic City Tokyo and its central northern region, analyzing the aspects such as museums, parks, religion, youth, universities, and more. Aimed at a comparative analysis of the two years before and after the 2020 Tokyo Olympics, an international symposium was also held online. However, due to the spread of the Covid-19 pandemic, it became difficult to conduct field surveys in the city and holding face-to-face research meetings. The Tokyo Olympics, postponed by a year, resulted in exposing various difficult problems within Japanese society. In this research, young researchers conducted intensive analyses of the process of hosting the Olympics and media coverage. This analysis, along with a report, was compiled in the book edited by Shunya Yoshimi, "Pandemic and Olympics: Japan's Unchanging Chain of Failures" (Kawade Shobo Shinsha).

研究分野：社会学

キーワード：オリンピック 東京 都市 コロナ メディア 文化 歴史 再開発

1. 研究開始当初の背景

本研究は、「創造都市」論を批判的に再考することから出発した。研究代表者は、研究開始まで数年にわたり、上野、湯島、秋葉原、神保町、本郷、谷中等の都心北部地域の文化的基盤整備を目指す「東京文化資源区」構想に関わってきた。この構想では、1960年代以降、拠点地区間の回遊性を失ってしまったこの地域に新たに多様な「コンタクト・ゾーン」を形成し、諸地域を繋いでエリアの一体性を回復させ、江戸・東京が蓄積してきた文化・芸術・学術のポテンシャルを現代に再生させていくことを目指してきた。そのため、(1)都心北部に立地する大学が連携して立ち上げるプロジェクト・スクール構想、(2)千代田・文京・台東3区共同のデジタル観光地図の制作と3区を跨ぐ路面電車構想、(3)ニコライ堂、湯島聖堂、神田明神、湯島天神、寛永寺等の社寺会堂や域内の多くの大学・文化施設との連携等々を進めてきた。

同時に、研究代表者と分担者である東京藝術大学の毛利嘉孝は、2012年のロンドン・オリンピックにおけるロンドンのEast End地区の再開発と2020年の東京オリンピックの比較研究を構想し、ロンドン大学のMike Featherstone教授を中心とするチームと連携し、ロンドンにおいて2016年のリオ・オリンピックも射程に入れた国際会議も開催してきた。

こうしたなかで、本研究では、東京都心地区について、2020年に開催が予定されていた東京オリンピックに至る2年間とオリンピック後の2年間について比較分析を重ねることで、グローバルな水準での東京の創造都市としての可能性と条件、そして限界ないしは課題を明らかにしようと考えた。そのため、グローバルな視点から2012年のオリンピックで再開発が進んだロンドンのEast End地区等についても検討を加えようとした。ロンドン・オリンピックについてはロンドン大学ゴールドスミス校のMike Featherstone教授を中心とするチームと共同プロジェクトを重ねてきたため、この連携を発展させることができると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、グローバル・シティとしての東京、とりわけ上野、湯島、秋葉原等の都心北部地域に焦点を当て、現代都市の、とりわけ文化的機能が集積している地域で生じてきた様々な活動が、それを取り巻くローカル、グローバルな歴史社会的な文脈にどのように媒介されているのかを明らかにしようとするものである。そのことにより、一般に語られているよりもはるかに奥行きと深みをもった「創造都市」の概念を我々は手にすることができると考えた。

一般に、「創造都市」の概念には、過去の蓄積の受容とそれに対する挑戦という両面が含まれる。東京における創造都市の再検討を目指した本研究は、(1)歴史社会学的アプローチ、(2)都市人類学的アプローチ、(3)都市デザイン的アプローチを視野に入れ、都心北部地域における文化の歴史的積層が、(1)明治維新(1870~80年代)、(2)関東大震災からの帝都復興(1920年代)、(3)戦災復興(1940~50年代)、(4)東京オリンピック(1960年代)をそれぞれ画期として変容してきたと考えた。また、人類学者のメアリー・ルイズ・プラット(Mary Louise Pratt)の概念を用いながら、都心地域を「コンタクト・ゾーン」として把握し、そこに集まる人々、たとえばミュージアム人(主に美術館・博物館の来館者)、公園人(主に公園の利用者)、繁華街人(繁華街の利用者)、社寺会堂人(宗教施設への参拝者や観光客)、外国人(地域の外国人居住者や旅行者)、先住人(長くこの地域に住んでいる人々)等々がこの地域の創造性とどのように関わっているか、これらの人々の地域の創造的過程との接触について検討を進めようとした。同時に、都市デザイン的ないし都市計画学的アプローチを採り入れつつ、地域の未来像をいくつかの次元で示し、そこに至るプロセスについて具体的に検討を進めようとした。

3. 研究の方法

本研究は、スタートして以来、若手研究者チームと分担研究者チームの2つが並行して研究会と議論を重ねていった。特に若手研究者は、「ポスト2020の東京をいかに考えるか」という問題意識から、上野・秋葉原・神保町を中心とする都心北部地域における都市の変容を探究した。具体的には、この都心北部地域について、若手を中心に「首都交通の立体化と路面電車の消失」「不忍池とアーティスト」「神保町書店街」「上野駅のエキナカとエキマエ」「秋葉原電気街」「神田の都市計画」などについての歴史社会学的分析とフィールドワークを重ねていた。その過程で、この地域で展開している東京ピエンナーレ、東京トラムタウン、上野スクエア、上野ナイトパーク、広域秋葉原(放送局)などの事業と連携していくことが検討されていた。それら全体が、新国立競技場やエンブレムの問題等々で多くの問題を露呈させてきた東京オリンピック構想の先で、ポスト・オリンピックシティとしての東京の未来像を描き出す模索となっていた。

しかし、2020年3月に新型コロナウイルス感染症の拡大が深刻化し、実際の都市のフィール

ドでの調査研究や対面での研究会開催がきわめて困難になった。

試行錯誤の後、本研究プロジェクトでは、もともと2020年3月に実施するはずだった国際シンポジウムを延期しなければならなくなり、同年11月14日、オンライン国際シンポジウム「東京新論：オリンピックの後にあったもの」を、日英2か国語で開催した。このシンポジウムには、米国からワシントン大学のケン・オオシマ教授、英国からロンドン大学のマイク・フェザーストン教授とトモコ・タマリ講師、台湾の東海大学から蘇睿弼教授にご参加いただき、それぞれ基調講演をしていただいた。これらの他、本プロジェクトの若手研究者チーム全員から、それぞれが進める研究の報告が行われ、それをめぐって研究分担者の先生方に加わっていただき、本研究プロジェクトと連携する「東京文化資源会議」の実践事例との関連について議論が重ねられた。会議の記録は、「東京文化資源会議」のホームページ等で公開された。このように、オンライン実施したシンポジウムは、オンラインの特性を利用して参加する海外研究者の枠を広げ、長時間に及ぶ議論を充実した仕方でも深めていくことができた。

また、以上の試行錯誤を経て、本プロジェクトでは、コロナ禍のなかで迷走する東京オリンピックに関し、国内外のメディア報道について資料の収集を精力的に進めた。これらの資料は、2021年夏の開催を経て、分析されることになった。並行して、研究代表者の吉見は、戦後東京と東京五輪の関係を社会学的視座から総合的に捉え直し、『五輪と戦後 上演としての東京オリンピック』（河出書房新社、2020年）を出版した。同書は、このプロジェクト全体の基礎となるものとなる。

コロナ禍は2021年も収まらず、2020年から1年延期されて21年7月に開催された東京オリンピックは、日本社会が抱え込んできた様々な問題点を一挙に露呈させるような困難極まる開催となった。本研究は、まさにこのコロナ禍でのオリンピックの強行的な開催自体に、現代日本が抱えている諸問題を考える重要な鍵があるとの認識に達し、2021年4月から若手研究者チームにおいて東京オリンピック2021の開催過程とその国内外メディア報道についての集中的な分析を進めた。社会全体が紛糾しながらオリンピック開催に向かっていく過程を詳細に記録しつつ、それを同時代的に分析したわけである。この記録と分析の成果は、報告書のほか、河出書房新社から2021年度の研究成果として吉見俊哉編著『検証 コロナと五輪：変われぬ日本の失敗連鎖』（河出新書、2021年）を出版することができ、反響を呼んだ。

4．研究成果

本研究は、創造都市の批判的脱構築に向け、オリンピックシティ東京とその都心北部地域について、博物館、公園、宗教、若者、大学等の面から分析を進めるところから始まった。2020年の東京五輪前後の2年間の比較分析を目指し、オンラインで国際シンポジウムも実施した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大で都市の現場の調査研究や対面の研究会開催が困難になった。1年延期された東京五輪は、日本社会の問題を一挙に露呈させる結果となった。本研究では、若手研究者が同五輪の開催過程とメディア報道の集中的な分析を進めた。この分析は報告書のほか、吉見俊哉編著『検証 コロナと五輪：変われぬ日本の失敗連鎖』（河出新書）にまとまった。同書は、2021年の東京オリンピックがどのように延期の末、無理筋の開催となり、この過程においてどのようなメディア報道や世論、海外の視点が絡まりあっていったのかを総合的に検証した数少ない本格的な研究書であり、今後、日本でのオリンピックの歴史について研究する者が必ず踏まなければならない貴重な先行研究となると自負している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計36件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 60(4)
2. 論文標題 二〇二一年夏、何が破綻したのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文芸	6. 最初と最後の頁 335-342
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 135(6)
2. 論文標題 東京は復興したのか：挫折の戦後史の果てに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 18-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 525
2. 論文標題 東京が打破すべき成長主義の呪縛	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Voice	6. 最初と最後の頁 50-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 36(12)
2. 論文標題 対談 敗者の街から近代を裏返す。	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京人	6. 最初と最後の頁 22-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 603
2. 論文標題 敗者としての東京：巨大都市の「隠れた地層」を読む(1) 勝者の東京/敗者の東京	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ちくま	6. 最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 604
2. 論文標題 敗者としての東京：巨大都市の「隠れた地層」を読む(2) クレオールの在地秩序の克服	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ちくま	6. 最初と最後の頁 46-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 605
2. 論文標題 敗者としての東京：巨大都市の「隠れた地層」を読む(3) 死者の江戸、荘厳化する外縁	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ちくま	6. 最初と最後の頁 42-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 606
2. 論文標題 敗者としての東京：巨大都市の「隠れた地層」を読む(4) 彰義隊の怨念と博覧都市	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ちくま	6. 最初と最後の頁 58-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 607
2. 論文標題 敗者としての東京：巨大都市の「隠れた地層」を読む(5)博徒と流民：清水次郎長と敗者の記憶	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ちくま	6. 最初と最後の頁 57-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 608
2. 論文標題 敗者としての東京：巨大都市の「隠れた地層」を読む(6)占領軍と貧民窟の不穏	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ちくま	6. 最初と最後の頁 58-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 609
2. 論文標題 敗者としての東京：巨大都市の「隠れた地層」を読む(7)最暗黒の東京は語るることができるか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ちくま	6. 最初と最後の頁 58-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 610
2. 論文標題 敗者としての東京：巨大都市の「隠れた地層」を読む(8)女工たちは語るることができるか(1)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ちくま	6. 最初と最後の頁 60-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 611
2. 論文標題 敗者としての東京：巨大都市の「隠れた地層」を読む(9)女工たちは語ることができるか(2)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ちくま	6. 最初と最後の頁 57-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 612
2. 論文標題 敗者としての東京：巨大都市の「隠れた地層」を読む(10)ニューヨーク、ソウル、東京	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ちくま	6. 最初と最後の頁 56-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森千香子, 小泉秀樹, 村山顕人, 寺田徹	4. 巻 69
2. 論文標題 インタビュー 価値観の多様性にもとづく都市像の再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市計画	6. 最初と最後の頁 16-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小泉秀樹	4. 巻 69
2. 論文標題 スマートシティと都市像：postコロナの都市も視野に入れながら	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市計画	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島直人	4. 巻 1740
2. 論文標題 都市計画の思想と場所-日本近現代都市計画史ノート	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 建築雑誌	6. 最初と最後の頁 75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田俊太, 本間研一, 山本俊哉, 田村誠邦, 中島伸, 小林正美	4. 巻 2020
2. 論文標題 神田古書店街における戦後の建物更新の変遷 「本の街」神保町のまちづくりに関する研究(10)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市計画	6. 最初と最後の頁 311-312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見 俊哉	4. 巻 97
2. 論文標題 マスの知 メディアの知	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 マス・コミュニケーション研究	6. 最初と最後の頁 3~16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24460/mscom.97.0_3	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉, 高山智樹	4. 巻 25
2. 論文標題 インタビュー 近代という祝祭の行方: 万博・オリンピックと戦後日本	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 唯物論研究年誌	6. 最初と最後の頁 8-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉、	4. 巻 3
2. 論文標題 「いま」を考えるトークシリーズ(Vol.6)帝国のまなざし：「人間の展示」と博覧会	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Assembly = アセンブリー：京都に劇場文化をつくる	6. 最初と最後の頁 30～32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 41(8)
2. 論文標題 東京をやりなおす：社会学的東京都心街歩きガイド	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 240～253
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 41(9)
2. 論文標題 東京をやりなおす：社会学的東京都心街歩きガイド（第2回）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 224～236
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 41(10)
2. 論文標題 東京をやりなおす：社会学的東京都心街歩きガイド（第3回）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 262～275
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 41(11)
2. 論文標題 東京をやりなおす：社会的東京都心街歩きガイド（第4回）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 270～283
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 41(12)
2. 論文標題 東京をやりなおす：社会的東京都心街歩きガイド（第5回）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 228～242
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見俊哉	4. 巻 41(1)
2. 論文標題 東京をやりなおす：社会的東京都心街歩きガイド（最終回）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 244～255
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mori Yoshitaka	4. 巻 28
2. 論文標題 Lukewarm Nationalism: The 2020 Tokyo Olympics, Social Media and Affective Communities	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Japanese Sociology	6. 最初と最後の頁 26～44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ijjs.12093	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊英徳	4. 巻 70
2. 論文標題 「東京五輪アーカイブ 1964-2020」1964年大会資料の“フロー”化と記憶の継承	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 情報の科学と技術	6. 最初と最後の頁 12～16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18919/jkg.70.1_12	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小泉秀樹、藤井さやか	4. 巻 58
2. 論文標題 都市計画制度を構想する：10年後のレビュー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市計画	6. 最初と最後の頁 80～83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島直人	4. 巻 68(3)
2. 論文標題 建築系都市計画の観点からの「都市計画法」100年の都市計画史	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市計画	6. 最初と最後の頁 14～19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島直人	4. 巻 68(4)
2. 論文標題 都市計画法100年と銀座の150年	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市計画	6. 最初と最後の頁 24～27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林正美、中島伸、服部海子、山本俊哉、田村誠邦、堀啓二	4. 巻 2019
2. 論文標題 7529 神田古書店街の街路空間特性 「本の街」神保町のまちづくりに関する研究(8)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会	6. 最初と最後の頁 1121 ~ 1122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊英徳	4. 巻 96
2. 論文標題 記憶の解凍」 資料の“フロー”化とコミュニケーションの創発による記憶の継承	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 情報学研究 : 学環 : 東京大学大学院情報学環紀要	6. 最初と最後の頁 1 ~ 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mori Yoshitaka	4. 巻 28
2. 論文標題 Lukewarm Nationalism: The 2020 Tokyo Olympics, Social Media and Affective Communities	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Japanese Sociology	6. 最初と最後の頁 26 ~ 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ijjs.12093	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見 俊哉	4. 巻 2
2. 論文標題 デジタルアーカイブは日本の危機を救えるか?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 309 ~ 309
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24506/jsda.2.4_309	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 タイムトラベル1964: デジタルアースでよみがえる東京五輪の記憶
3. 学会等名 教育ITソリューションEXPO 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 [基調講演] 「記憶の解凍」とデータビジュアライゼーション
3. 学会等名 東京大学空間情報科学研究センターCSIS-S4D 第7回公開シンポジウム「ジオ・データビジュアライゼーションの社会的役割」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊英徳
2. 発表標題 記憶の解凍
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第3回研究大会 企画セッション(6)アーカイブの継承(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mori Yoshitaka
2. 発表標題 Crisis? What Crisis? Continuity and Change in Japan
3. 学会等名 British Association for Japanese Studies (BAJS), Sheffield University, United Kingdom (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mori Yoshitaka
2. 発表標題 Lukewarm Nationalism: The 2020 Tokyo Olympics, Social Media and Affective Communities
3. 学会等名 University of Manchester
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mori Yoshitaka
2. 発表標題 The Transformation of Underground Street Theaters and Underclass Communities for Day-Laborers in Tokyo
3. 学会等名 Shifting Underground in East and Southeast, Asia Research Institute (ARI) National University of Singapore, Singapore (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mori Yoshitaka
2. 発表標題 Art and Communities after the 2011 Earthquake in Japan
3. 学会等名 Collaboration and Community-Building in Contemporary Art (CCCA) Workshop No. 3: Site, Material, and Medium in Socially Engaged Art, Aarhus University, Denmark (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高野明彦、仲俣暁生
2. 発表標題 本の文化を記憶する。神保町アーカイブは可能か？
3. 学会等名 書物の次世代型アーカイブ、検索、デジタル空間での可能性を語る (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高野明彦、沢辺均、緒方靖弘、野口祐子
2. 発表標題 パネルディスカッション 「デジタルアーカイブ産業の未来を拓く」
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第 2 回研究
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高野明彦
2. 発表標題 デジタルアーカイブ社会の実現に何が必要か？
3. 学会等名 国立大学図書館協会シンポジウム「大学図書館デジタルアーカイブの活用に向けて」
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 吉見 俊哉	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 316
3. 書名 大学は何処へ 未来への設計	

1. 著者名 吉見 俊哉	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 336
3. 書名 東京復興ならず	

1. 著者名 吉見 俊哉	4. 発行年 2021年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 256
3. 書名 検証 コロナと五輪	

1. 著者名 吉見 俊哉	4. 発行年 2020年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 368
3. 書名 五輪と戦後	

1. 著者名 吉見 俊哉	4. 発行年 2020年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 352
3. 書名 東京裏返し 社会学的街歩きガイド	

1. 著者名 中島 隆博、吉見 俊哉、佐藤 麻貴、湯島神田上野社寺会堂研究会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 社寺会堂から探る 江戸東京の精神文化	

1. 著者名 中島 隆博、吉見 俊哉、佐藤 麻貴、湯島神田上野社寺会堂研究会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 社寺会堂から探る 江戸東京の精神文化	

1. 著者名 千野 拓政編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 越境する東アジアの文化を問う	

1. 著者名 伊藤 守編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 296
3. 書名 コミュニケーション資本主義と コモン の探求	

1. 著者名 吉見 俊哉	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 284
3. 書名 平成時代	

1. 著者名 吉見俊哉	4. 発行年 2019年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 352
3. 書名 アフター・カルチュラル・スタディーズ	

1. 著者名 北野 圭介	4. 発行年 2018年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 306
3. 書名 マテリアル・セオリーズ	

1. 著者名 中島 直人、村山 顕人、高見 淳史、寺田 徹、樋野 公宏、廣井 悠、瀬田 史彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学芸出版社	5. 総ページ数 208
3. 書名 都市計画学	

1. 著者名 中島 直人	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 408
3. 書名 都市計画の思想と場所	

1. 著者名 吉見 俊哉	4. 発行年 2018年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 224
3. 書名 戦後と災後の間 溶融するメディアと社会	

1. 著者名 吉見 俊哉	4. 発行年 2019年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 304
3. 書名 平成史講義	

〔産業財産権〕

〔その他〕

東京文化資源会議 https://tcha.jp/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高野 明彦 (Takano Akihiko) (00333542)	国立情報学研究所・コンテンツ科学研究系・教授 (62615)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡邊 英徳 (Watanabe Hidenori) (00514085)	東京大学・大学院情報学環・学際情報学府・教授 (12601)	
研究分担者	北田 暁大 (Kitada Akihiro) (10313066)	東京大学・大学院情報学環・学際情報学府・教授 (12601)	
研究分担者	宇野 求 (Uno Motomu) (20261935)	東京理科大学・工学部建築学科・教授 (32660)	
研究分担者	小泉 秀樹 (Koizumi Hideki) (30256664)	東京大学・先端科学技術研究センター・教授 (12601)	
研究分担者	中島 直人 (Nakajima Naoto) (30345079)	東京大学・大学院工学系研究科(工学部)・准教授 (12601)	
研究分担者	小林 正美 (Kobayashi Masami) (70247146)	明治大学・理工学部・専任教授 (32682)	
研究分担者	毛利 嘉孝 (Mouri Yoshitaka) (70304821)	東京藝術大学・大学院国際芸術創造研究科・教授 (12606)	
研究分担者	中村 政人 (Nakamura Masato) (80361749)	東京藝術大学・美術学部・教授 (12606)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 国際シンポジウム 東京新論：オリンピックの後にあったもの	開催年 2020年～2020年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------